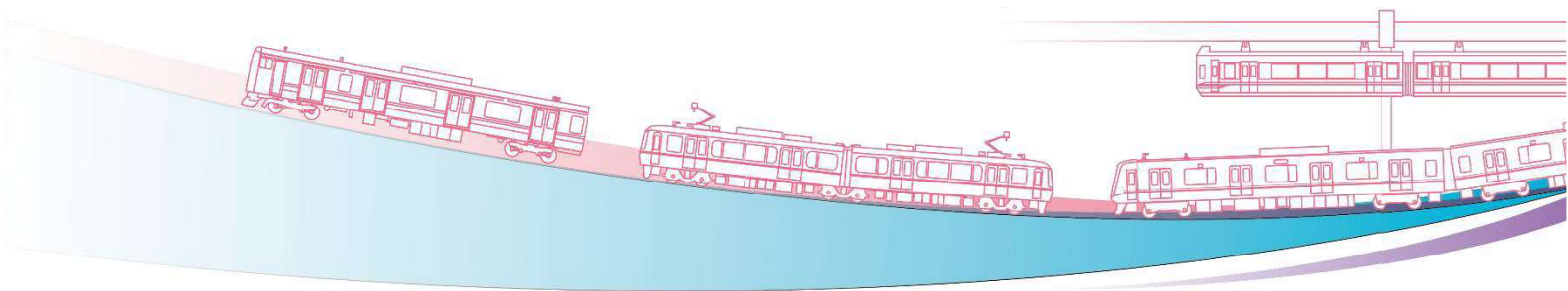


# 第3章

---

## 交通課題



## 第3章 交通課題

### 1. 藤沢市をとりまく状況の整理・交通課題

「第2章 藤沢市をとりまく状況」では、藤沢市をとりまく現状及び上位・関連計画と整合・連携すべき内容を整理しました。第3章では、「藤沢市都市交通計画」を策定するにあたり、考慮すべき内容を整理します。

#### 1-1 上位・関連計画を踏まえた本計画の方向性

上位・関連計画を整理した内容を踏まえ、本計画を策定するにあたっての方向性を次の通り整理しました。

- 身近な暮らしを支える交通まちづくり
- 誰もが外出・移動しやすい交通まちづくり
- 交流・活力を創出する交通まちづくり
- 環境にやさしい交通まちづくり
- 災害に強く、安心して生活できる交通まちづくり

#### 1-2 とりまく現状を踏まえた交通課題

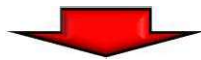
「1-1 上位・関連計画を踏まえた本計画の方向性」を踏まえ、藤沢市をとりまく現状を整理し、次の5つに交通課題を整理しました。

- 日常生活における交通課題
- 健康・社会参加における交通課題
- 産業・観光における交通課題
- 環境における交通課題
- 安全・安心における交通課題

日常生活における交通課題

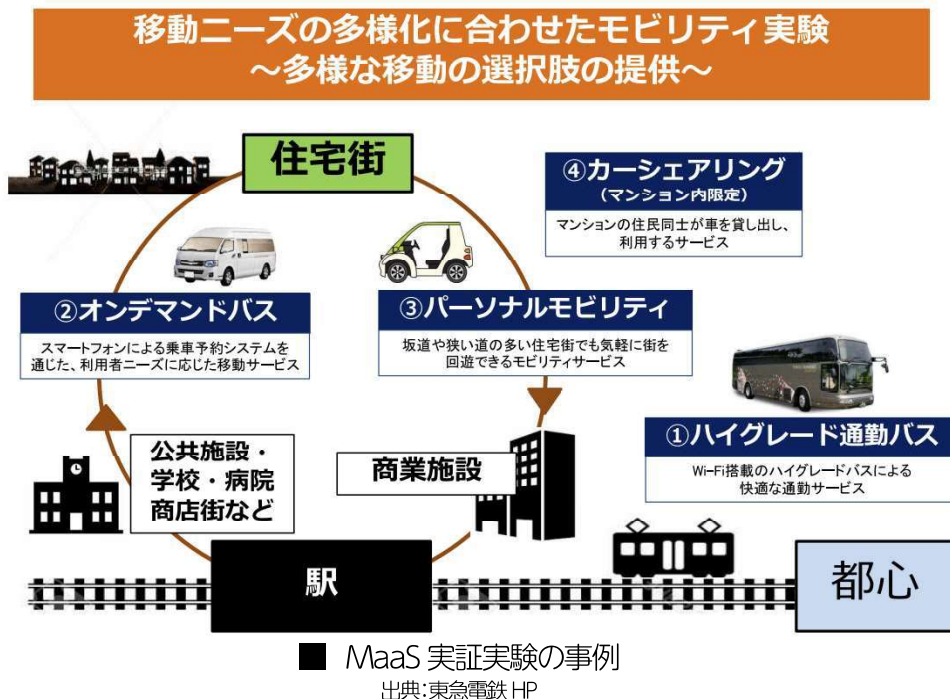
【現状】

とりまく状況の整理
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口は増加傾向にあり、藤沢駅や湘南台駅周辺などに人口が集中しています。</li> <li>● 2035年(令和17年)に約45万人という人口のピークを迎えます。</li> <li>● 高度・大型の施設は、都市拠点や幹線道路沿いに立地が多くなっています。日常生活に必要な施設は、市内全域に立地しています。また、EC(電子商取引)の利用も年々増加傾向にあり、ライフスタイルの変化や多様化にも対応が必要です。</li> <li>● 乗合タクシーの導入などによって公共交通サービス圏は約9割をカバーしています。また、市民アンケートからは公共交通の利用しやすさが最も重要な項目となっています。</li> <li>● 超高齢社会の進展により、市内(生活エリア)を中心とした私事移動の増加が予測されています。また、通勤・通学が減ることで公共交通の利用者の減少が予測されています。</li> <li>● 新型コロナウイルスの影響によって、公共交通の利用者減少が10年進んだとも言われています。</li> </ul>




【交通課題】

<ul style="list-style-type: none"> <li>● テレワークやWEB会議といったICT(情報通信技術)の活用によるライフスタイルの多様化、また、高齢化に伴い、通勤移動が減少し、私事移動が増加することが懸念されており、市内(生活エリア)を中心とした移動の変化へ対応する必要があります。</li> <li>● また、このまま、何も対策を講じなかった場合、公共交通利用者数が減少することが予測されており、交通不便地域の解消だけでなく、公共交通サービスの維持確保も重要となります。</li> <li>● EC(電子商取引)の利用増加などによって発生する新たな交通課題にも注視が必要です。</li> <li>● バス・タクシーなどの自動車運送業務の人手不足が深刻化しており、バス本数の減便などの事例が散見されます。</li> </ul>
---



健康・社会参加における交通課題

【現状】

とりまく状況の整理	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 藤沢市健康増進計画(第2次)の中間評価の結果からは、運動頻度は年々減少傾向にあることが伺えます。また、パーソナルトリップ調査の結果からも、一人当たりのトリップが減少し、外出機会が減少しており、運動不足になりがちな、現代社会の傾向が表れています。</li> <li>● 市民アンケートでは、公共交通の利用しやすさに次いで、歩行環境に対する重要度が高くなっています。</li> <li>● 高齢化の進展だけでなく、世帯類型としては、単身世帯の増加も見込まれています。</li> </ul>	 <p>■ フレイル予防について 出典:藤沢市福祉部高齢支援課</p>



【交通課題】

<ul style="list-style-type: none"> <li>● EC(電子商取引)の利用やICT(情報通信技術)の活用により、外出機会が減少している現状を踏まえ、身近な移動から市民自らが健康増進に取り組めるような移動環境の整備を進める必要があります。</li> <li>● ライフスタイルの変化や余暇活動に充てる時間の増加が進んでいるほか、今後、増加が見込まれる単身世帯への対応をするため、身近な地域を拠点とした健康・生きがいづくりなどの活動・社会参加を支える必要があります。</li> </ul>
--

産業・観光における交通課題

【現状】

とりまく状況の整理

- 平成20年代前半は一時的に製造品出荷額等が大きく落ち込みましたが、「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」をはじめとする3つの特区指定や市内の産業拠点及び近隣市の高速道路インターチェンジの整備などにより、順調に回復しています。
- 新型コロナウイルスの拡大前は、観光客数は増加・多様化の傾向にありました。2022年(令和4年)の観光客数は最盛期の2019年(令和元年)比で約9割まで回復しています。
- 市内だけでなく、市外からの自家用車で訪来も多く、鉄道駅周辺や観光地周辺では、渋滞が発生しています。



■ 新産業の森



■ 国道467号の渋滞

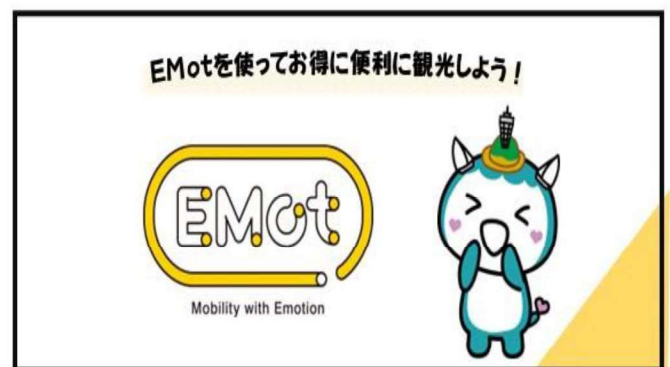


【交通課題】

- 都市拠点等の整備に合わせた新たな産業・機能の誘致、スタートアップ支援やロボット産業振興などの新産業創出が進むよう、人やモノの活発な交流を支える必要があります。
- 本市は首都圏から気軽にアクセスできる全国有数の観光地として、アクセス性や市内の回遊性を高める必要があります。



■ シェアサイクル  
出典:江ノ島電鉄株式会社

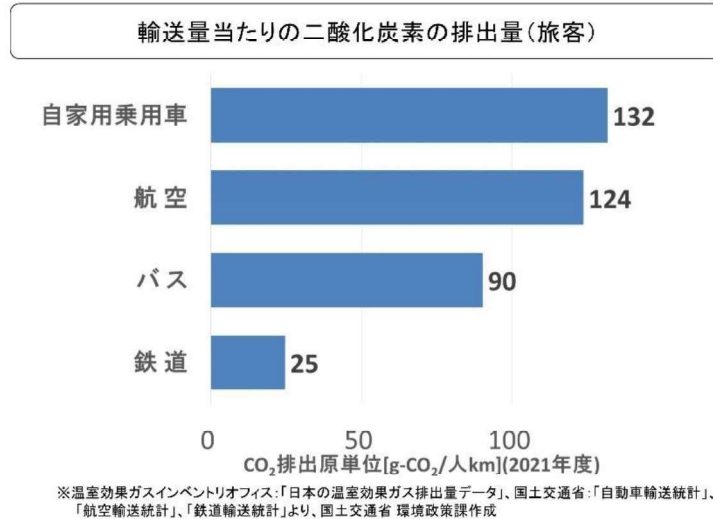


■ 観光型 MaaS  
出典:藤沢市観光公式 HP

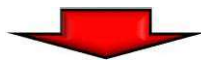
環境における交通課題

【現状】

とりまく状況の整理	
●	温室効果ガスなどを要因とした地球温暖化に伴い、異常気象や自然災害が激甚化・頻発化しており、世界的に脱炭素や地球温暖化対策の重要性が高まっています。
●	本市の温室効果ガス排出量は、運輸部門においても、減少しています。
●	目標値である46%削減(2030年(令和12年))の達成に向けて継続的な対策が必要となっています。

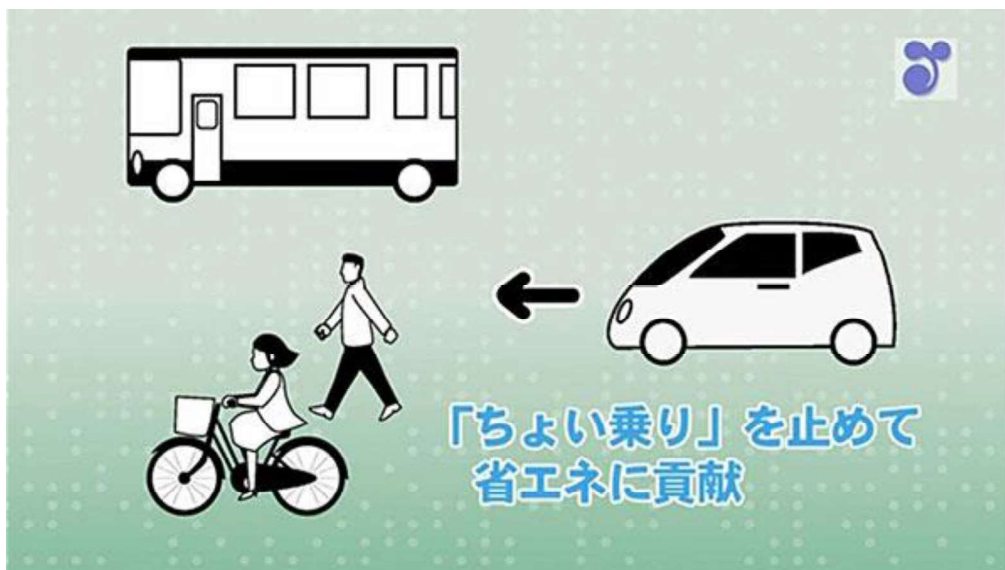


■ 1人が1km移動する際の、輸送手段別の二酸化炭素排出量  
出典:国土交通省



【交通課題】

- 自然との共生、環境対策が世界規模で求められる中で、地球温暖化の要因となっている温室効果ガスの削減などに取り組んでいく必要があります。



■ 賢い移動方法  
出典:政府広報オンライン

安全・安心における交通課題

【現状】

とりまく状況の整理
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地震対策に加え、津波対策の重要性が再認識されました。</li> <li>● 近年では、豪雨・土砂災害への対応も重要となっています。</li> <li>● 交通事故の発生件数は減少していますが、事故の種別としては、高齢者事故や自転車事故の割合が高まっています。</li> </ul>



■ 2019年(令和元年)台風第19号による箱根登山鉄道の被災状況  
出典:かながわ交通計画



【交通課題】

- 自然災害が、頻発化・激甚化する中で、市民や来街者の被害を最小限にするため、防災・減災対策を進める必要があります。また、災害時だけでなく、平時においても安全・安心して移動できる環境づくりが必要となります。
- 交通事故は、減少していますが、市民の安全のため引き続き交通安全対策に取り組む必要があります。特に、高齢者事故や自転車事故への対策が重要となります。



■ 高齢者交通安全教室  
出典:藤沢市防災安全部防犯交通安全課